大球磨川

至誠　向学　鍛練
夢を持ち 自ら学ぶ たくましい 生徒の育成
八代市立第三中学校
学校だより第７号
令和３年１０月２２日

昨年を「超える」職員集団に！

校長　稲岡博信

トリプル(3)、クワドラプル(4)を「超える」クインティプル(5)100（安打、得点、打点、投球回数、奪三振）の偉業を成し遂げた大谷翔平選手。ちなみに96四球、80長打が100に到達していれば、セクスタプル(6)、セプタプル(7)の達成でした。常に平常心で笑顔を絶やさず、ベーブルースの記録を「超えていく」様を例えるなら、「ウルトラ・ハイパー・スーパースター」とでも言うのでしょうか。ウォルト・ディズニーが残した「現状維持は後退」という言葉を意識してか、三中生も昨年を「超える」というテーマをもって、様々な活動に一丸となって取り組んでいます。今は、昨年の歌声を「超えよう」と、朝・昼・夕に合唱コンクールの練習に熱が入っています。私たち職員も４月、昨年度を「超える」職員集団をつくることを確認し、「教師と生徒、教師同士がつながりながら生徒の多様性を認め合う学校づくり」に努めてきました。しかし、今月実施した学校評価アンケートで、気になる結果がありました。それは、『学校は一人一人を大切にした指導や対応ができていますか（79%）』『先生は子供のことをよく理解していますか（73%）』『学校ではいじめや問題があったときすぐに対応してくれていますか（71%）』について、『そう思う、どちらかといえばそう思う』と回答された保護者は、他の項目より低く８割に満たなかったうえに、昨年度末の結果と変わらなかったということです。先月の体育大会で、昨年を「超える」という思いをもって輝いた子供たちの姿を見ていただいた直後の結果だけに、この３項目の数値が高まってはじめて、授業や行事、部活動などに頑張る子供たちの姿が保護者に高く評価され、信頼される職員集団になるのだとあらためて認識しました。「一人一人を大切にするとは？」「子供をよく理解するとは？」を今一度、職員に問いかけ、今日の自分を「超える」自分を目指せる職員集団となるよう努めてまいります。

家庭学習の充実

各家庭での学習の取組はいかがでしょうか。体育大会終了後から、家庭学習をより一層充実させて行くために、２つの取組を行っています。

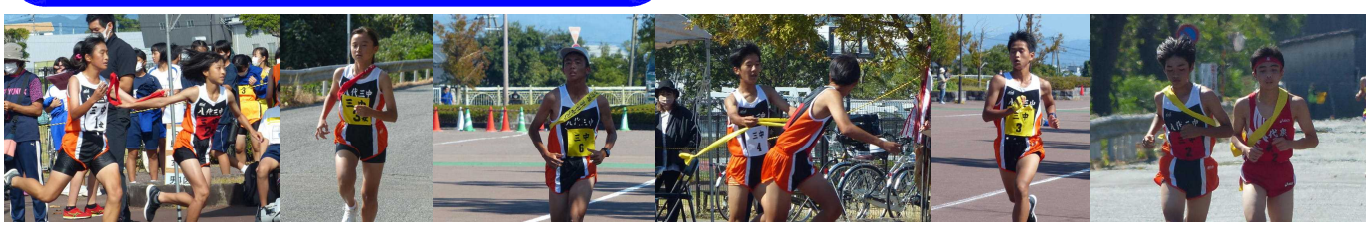
１つ目は、学期ごとの学習目標を立て、その実現に向けて月ごとに家庭学習の取組を振り返ることです。これは「轍（生活ノート）」に記入をしていきます。保護者からのコメントも毎月書いてもらうようになっていますので、お子様に励ましのメッセージを記入していただくようお願いします。

２つ目は、タブレットPCによる「ｅライブラリアドバンス」の取組です。隔週の金曜日に、教科担当から課題が出ます。それを、自分のタブレットＰＣにダウンロードし、終末の課題として取り組みます。月曜日に登校後、取り組んだデータを提出します。基本的な内容が多いので、基礎基本の定着につなげてほしいです。

ご家庭でも、お子様の家庭学習の取組を見られ、励ましやアドバイスをお願いします。

箏曲部演奏会

10月15日（金）に箏曲部の演奏会がありました。最優秀賞を目指して頑張っていたコンクールが今年も中止となってしまったので、３年生の最後の発表の場として、校内発表会を行いました。コンクールで演奏する予定だった「天翔るきらめき」の音色は、体育館に響き渡る素晴らしいものでした。演奏後、部長の久原彩瑛さんの涙を流しながらのあいさつも感動的でした。

八代中体連駅伝大会【女子は躍進賞！】

10月14日（木）に県南運動公園で行われた駅伝大会では、男子が5位、女子が６位でした。女子は昨年の11位から大きく順位を上げ、躍進賞となりました。3週間という短い期間の練習でしたが、候補選手が一丸となり練習から頑張り、それぞれの選手が持てる力を発揮できました。